

11/27 富中陸上部が全道中学駅伝を制覇！  
全国大会への抱負語る



富丘中学校陸上部が、10月18日に新得町で行われた「北海道中学校駅伝競走大会」女子1部で優勝を飾りました。同大会は5人で12kmを走る方式で、1区から4区まで福井梨央さん(3年)、加藤向日葵さん(1年)、黒澤美桜さん(1年)、小林咲希さん(3年)が出走。最終の5区では、福井佑芽さん(1年)が先頭と56秒差でたすきを受け取ると、ここから驚異の追い上げを見せ、最後はコンマ数秒の差で先着しました。12月14日に滋賀県で行われる全国中学駅伝大会への出場報告のため、市役所を訪れた富中陸上部。大逆転優勝の立役者となった佑芽さんは「たくさんの応援してくれる人がいるので、全国でも感謝の気持ちを忘れず、少しでも順位を上げる走りをしたい。5区で起用されたら、ほかの速い選手に食らいついて区間15位以内をめざしたい」と抱負を話しました。

11/25 三菱オートリースと連携  
次世代自動車導入を推進



市は令和4年2月に「千歳市ゼロカーボンシティ宣言」を発表し、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。その一環として公用車を順次、EV車、プラグインハイブリッド車などの次世代自動車に転換していくこととし、これにより公用車から排出されるCO2を、令和12年度までに平成25年度比で46%削減することを目標に掲げています。次世代自動車の導入は、市が三菱オートリース株式会社と連携して行う「公用車次世代自動車推進等業務」によるもので、この日は同社の高井直哉代表取締役社長から横田市長にレプリカキーが手渡されました。横田市長は、本事業への受け止めに「安全性や利便性をアピールすることで、市民へのEV普及を後押しし、脱炭素化に取り組んでまいります」としています。

11/15 “鮭の日”にちなんだ特別イベント  
ありがとうサーモンフェスタ 2025



道の駅サーモンパーク千歳で11月11日から16日まで、「第1回ありがとうサーモンフェスタ2025」が開催されました。期間中は、「いくら醤油TKG(たまごかけごはん)無料大試食会」や「ミニ鮭汁ふるまい無料大試食会」など、鮭への感謝をテーマにした企画が並び、訪れた人たちの笑顔であふれていました。渡邊駅長は「秋のイベントは昨年も開催したが、今年は鮭の日をより強調し第1回として開催した。これを毎年定着させていきたい」と話します。11.11秒タイムチャレンジに挑戦した月田菜奈さんは「はやめに止めようと思っていたが、はやく止めすぎてしまった」と少し悔しそうな表情。それでもご家族と楽しそうに参加する姿が印象的でした。

11/20 次世代半導体とほっかいどうの未来 in 千歳  
半導体産業の現状を解説



市と北海道が「次世代半導体とほっかいどうの未来 in 千歳」と題し、半導体産業の現状を解説するセミナーを開催。ラピダス社の石丸一成専務執行役員 CTO、公立千歳科学技術大学の福田浩教授らが講師を務め、世界最先端のロジック半導体の開発・製造をめざすラピダス社の最新プロジェクトや、半導体の進化が私たちの暮らしにどんな変化をもたらすのかを紹介しました。終盤のパネルディスカッションでは、有識者5人が登壇し意見を交わしました。石丸 CTO は、世界シェアを落とした日本の半導体産業の巻き返しの見込みを問われ、「弊社の技術者は凋落した日本の半導体産業を知っており、『もう一回やりたい』という人たちが集まっている。若い人たちもシニアのナレッジをどんどん吸収している。確かにブランクはあるが、使うものは違っても経験を生かせるのが半導体製造。今までの進捗から見て、確実に巻き返せると考えている」と話しました。

11/3 「子育てするなら、千歳市」  
いいお産の日 in ちとせ



毎年11月3日に行われている「いいお産の日 in ちとせ」をちとせモールで開催しました。今年で11年目を迎える本イベントでは、助産師会ブースや子育てコンシェルジュ相談、妊婦体験など、家族で楽しめる企画が盛りだくさん。会場には子どもたちの笑い声や子育てについて相談する声があふれ、親子連れなど多くの来場者でにぎわいました。ミニ講座「発達の土台を作る《抱っこ講座》」に参加した原田侑紀さんは「大人になってからの体への影響や抱っこのコツなどを知ることができて良かった」と話しました。



**人々のうごき**

《総人口》  
97,034人 (-26)  
男性 49,365人 (-22)  
女性 47,669人 (-4)  
《世帯》52,800世帯 (-18)

( )内は、前月との比較です。

12-1 現在

**広報ちとせからのお知らせ**

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係  
☎(24)0104 FAX(22)8851

ちとせ空港  
Vol.32 千歳の生命線

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港100年の歴史を振り返る

**百年物語**

米田忠雄の奮闘②  
昭和41年7月15日の「千歳空港を自衛隊専用空港に」との政府発言を受け、市長の米田忠雄は、これと真逆の「千歳空港を国際空港に」との要望意見書を手に、関係当局への陳情運動を開始しました。

市議会も、10人だった空港対策特別委員会を全員で構成する超党派の取り組みへと強化。要望意見書への賛同を求め米田とともに各地を回り、自治体など24団体から署名を取りつけました。

迎えた7月22日。この日は運輸省、北海道開発庁、防衛庁のトップ会議により「千歳空港を自衛隊専用空港とし、札幌周辺に新しい国際空港をつくる」との方針が正式決定されるはずでした。果たして結果は「千歳空港は基本的に軍民分離を図り、北海道の国際空港を前向きに検討する」というもの。「自衛隊専用空港」からは、いくらかトーンダウンしたものの、樂觀はできないとみられた米田は陳情運動を継続し、市民にはこう呼びかけました。

「民間空港は千歳の生命線である」  
7月26日には大橋武夫運輸大臣が来道し、千歳空港を視察したのち、記者会見で次のように発言しました。

「石狩町生振など、札幌に近い場所に国際空港をとの要望も強いが、積雪などの関係から千歳周辺に絞って決める」  
「2000m級の滑走路を新設して民航専用とし、軍民分離を図りたい」

広報ちとせ  
8月1日  
345  
焦点に立った千歳空港  
国際空港問題  
民間空港は千歳の生命線である



まちのできごと・マンスリーでお知らせします。